慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	西漸運動と非農業人口
Sub Title	The westward movement and the non-agricultural population
Author	岡田, 泰男
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1964
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.57, No.7/8 (1964. 8) ,p.578(58)- 607(87)
JaLC DOI	10.14991/001.19640801-0058
Abstract	
Notes	小島栄次教授追悼特集 論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19640801-0058

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

西漸運動と非農業人口

岡田泰男

小島先生はアメリカ経済史にも関心をよせておられたが、とくに西漸運動の問題については、御専門の経済地理学との関連もあって、興味を持っていらっしゃったように思う。本稿においては、その西漸運動の研究において、従来あまり注目されなかった一面をとりあげ、考察を加えてみたい。

一

西漸運動の研究は、ターナー以来すでに七〇年に達する研究史を持つ。とりあげられた問題も多岐にわたり、いわゆる通説の修正もしばしば試みられた。しかしながら、次の二点については、いまだ十分な検討がなされていない。すなわち、㈠西漸運動における非農業人口の役割、㈡西漸運動に加わった非農業従事者が、西部においていかなる機会を求めたか、の二つの事柄である。

第一の点は、西漸運動の主力が農民であるとされ、フロンティアがもっぱら開拓農民中心に考察されてきたため、冷淡な扱いしか受けていない。もちろん、農民に先行した猟師、鉱夫、牧畜業者等の存在は認められているし、土地投機業者の問題は盛んに論じられている。しかし、西漸運動において、農民以外の人々が全体としていかなる役割を演じたか、さらには、西部の町あるいは都市がいかなる意義をもったか、という問題は不当に閑却されてきた。数年前に上梓されたウェイドの書物[1]は、まさにこの点について渇を癒すものであった。彼はセント・ルイス、ピッツバーグ、ルイスヴィル、レキシントン、シンシナティの西部五都市をとりあげ、これらが周辺農村地帯に先んじて建設され、西部開拓の先頭に立ったことを明らかにした。ただし、その後フロンティアの都市については、時に学会でとりあげられはしたようであるが[2]、それほど多くの業績は現われていない。そして西漸運動における非農業人口の役割については、依然まとまった見解が形成されるまでには至っていない。

第二の点は、第一のそれとも関連があるが、より一層無視されているといってよい。西部への移住者あるいは移住希望者が、フロンティアにおいて農場を取得し、独立した農民になることを望んだ、というのはいわば自明の前提とされている。例えば、東部労働者と西漸運動の問題が「安全弁説」批判の見地から考察された場合、東部労働者が西部へ移住し、農場を取得して農民となる機会が、ごく限られていたことは明らかにされた[3]。しかし、東部労働者がどの程度、西部への移住を希望したか、また移住希望者がはたして農民になることを望んだか否か、は問題とされなかった。それは、いわば当然の希望とされ、かかる希望が実現されなかったことが強調された。

たしかにアメリカにおいては、東部労働者が西部へ移住して独立の農民となった場合があり、それを希望した者も多かったであろう。植民地時代のアメリカにおいて、手工業者が土地を得て農民になったことについては、すでにアダム・スミスも「国富論」第三編に述べている。アメリカにおいては未耕地を取得することが容易であるので、一定の資本を貯えた手工業者は土地を買入れて改良する、と述べた後にスミスはつづける。

「彼は工匠たることをやめて農場主となるのであるが、この国で獲られるところの工匠の高い賃銀も安易な生活も、共に、

彼を籠絡して彼をして自分のためではなく他人のために働くようにさせるには足らないのである。彼は考える、工匠は御得意様の使用人だ、そういう人々のお蔭で喰うのだ、が、自分の土地を耕作し、自分の家族の労働によって必要なる生活資料を獲る農場主ならば、真箇に一人前の主人であって如何なる世界に対しても独立だと。」（岩波文庫・大内訳）

あえてスミスを引用したのは、従来の研究においては、暗黙のうちにスミスの如き考え方が、前提とされてきたように思われるからである。「彼は考える」というのは、いうまでもなくスミスが考えたことである。それはジェファスン主義の思想にも合致してはいるが、はたして実際に工匠自身がそう考えたであろうか。もちろん、植民地時代と独立後とでは条件は異なる。しかし独立後もフロンティアは存在するし、西漸運動が本格化したのは一九世紀に入ってからのことである。その西漸運動の研究において、スミスの文章に代表されるような考え方を再検討する必要がありはしないだろうか。[4]

農業に不慣れな東部都市の住民が、西部において農場経営に成功することの困難さは説かれている。しかし、東部において仕事場や商店での生活に慣れた者が、西部に移住して農業をおこなうことを希望したかどうかも考えてみなければならない。東部労働者といっても、一九世紀中葉に至るまでは、職人あるいは小親方という性格が強く、いわゆる「腕に職をもつ人々」である。彼等が農場主こそ真に独立した人間と考え、身につけた技術を捨ててまで農民になろうとしたかどうかは、疑問であるといわねばならない。彼等が西部へ移住するにあたっては、鋤を手にとるよりも、むしろ自己の持つ特殊技能をフロンティアにおいて活用することをこそ望んだのではなかろうか。それは、商業や自由職業に従事していた人々の場合にも亦いえるのではないか。先の書物でウェイドは、多くの移住者が豊かな土地を求めると同様に、発展しそうな町を求めて西へ向ったと述べ、彼等を引きつけたのは肥沃な農場というよりは、生れたばかりの都市での機会であったと述べている。[5]しかし、この点について彼はそれほど検討を加えていないし、他にまとまった研究もない。

以上、西漸運動史の研究における二つの盲点というべき問題を示した。本稿においては、一八二〇年代から三〇年代にかけて、テキサス・オースティン開拓地[6]への移住者及び移住希望者が残した史料を手掛りとして、第二の問題を考察してみたい。[7]その際、移住者及び移住希望者中における非農業従事者の割合を先ず明らかにし、次いで、その非農業従事者がいかなる機会を求めたかを検討する。

（1）Wade, R. C. The Urban Frontier (Cambridge, 1959)
（2）Mississippi Valley Historical Association 一九六二年度大会のプログラムを参照。
（3）高村象平「アメリカのフロンティア」（「経済史随想」昭二六所収）
（4）土地を得て独立するという考え方は、リンカンの演説等にもよく見られる。一八五九年九月、シンシナティにおける演説の一節を掲げる。「私の考える労働者とはこうだ。両親の手から離れる年齢になった若者は、神から与えられた二本の手と、働く意志と、仕事を選ぶ自由の他には資本もなく、土地や仕事場も持たない。彼は他人に雇われる。……彼は勤勉に働き、真面目に行動して、一、二年の労働の結果、資金がたまる。今や彼は自ら土地を買い、定着し、結婚して息子や娘を持ち、やがては、他の若者を雇う資本を持つにいたる。」Shaw, A. H., ed., The Lincoln Encyclopedia (N. Y., 1950) pp. 179—80.
（5）Wade, op. cit., p. 34.
（6）オースティン開拓地については、拙稿「アメリカ南西部における西漸運動」（「三田学会雑誌」五六巻三号）を参照。
（7）第一の問題の場合には、北西部と南西部とで、非農業人口の果した役割の相違が重要な論点となるであろう。第二の問題についても、南北の比較が必要であろうが、本稿においてはその点についての考察はおこなわない。

二

オースティン開拓地は、一八二一年、当時メキシコ領であったテキサスに、スティヴン・オースティン Stephen Austin によって建設された。開拓地への移住者が持参した紹介状あるいは人物保証状、移住希望者がオースティンにあてた問合わせの書簡が、それぞれ相当数「オースティン文書」[1]におさめられている。右の両者を史料として使用するので、最初にその実例を紹介しておく。先ず紹介状（人物保証状）の例として、ミシシッピから移住した James Collinsworth のもの[2]、ルイジ

アナから移住した George Feazle のもの[3]二通を掲げる。

「われわれミシシッピ州ウィルキンソン郡の住民たる下記署名者一同は、この書面を持参するジェイムス・コリンズワース氏と、長年にわたり親しく交際している。その間、彼の行動は、あらゆる場合において、正直、勤勉かつ正当であった。われわれは彼をかかる人として、また信頼するに足る人物として推薦することをためらわない。

一八二一年十月十三日

ミシシッピ州ウッドヴィル
州知事　G・ポインデクスター
（他署名略）」

「この書面の持参者ジョージ・フィーズル氏は、約八年間にわたり、当郡の住民であり、正直勤勉な市民として行動した。フィーズル氏は、家族を移住させるための手筈をととのえにテキサスへ向うところである。私はフィーズル氏を、良き農民として、テキサス政府の保護をうけるに価する人物として推薦する。

一八二二年七月十日

ルイジアナ州ワチタ
郡判事　O・J・モーガン
（他署名略）」

次にオースティンへの問合わせの例として、ミシシッピの John J. Clarke の書簡[4]を掲げる。

「拝啓

テキサスにおいて貴殿が選択された地域について二、三お尋ねしたい。お手数をかけて申訳ないが、しばらく前にアーカンソーのマウント・プレーリーでお会いしたことを思い出して下されば、お許しいただけると思う。

私は今年の秋には、貴殿の開拓地の住民になろうかと考えており、その際、近隣の住民の役に立つような商品を持ってゆくことを計画している。いかなる運送方法が最適かつ最良であるかについて、御忠告をいただければ幸いである。ニュー・オルリンズから積出す場合、どこに陸揚げすれば貴殿の土地に一番近いか、等々である。

当地方には、貴開拓地への移住を希望する者が大勢いる。しかし、開拓地の事情及び移住者の将来の見込についての正確な情報の得られぬこと、さらに移住の途中または移住後に彼等をおそう野蛮な敵への怖れ等から、実行せずにいる者が多い。もし貴殿が、貴地に関する右の如き事柄についてお知らせ下されば、かかる事情で移住をためらっている人々を元気づけることにより、貴殿にとっても利益になると思う。ぜひとも、なるべく早く御返事をいただきたい。その際、すでに何家族くらい到着しているか、海岸沿いに町を建設することについての貴殿の見込はどうか、をお知らせいただきたい。この後者の件は、いつも商人たちの話題になっており、一般的に希望されていることと思う。

私の手紙にお気をとめていただければ幸いである。近いうちに、貴殿の住んでおられるその場所でお目にかかりたい。

一八二二年二月二十五日

ミシシッピ州ピンクニイヴィル
ジョン・J・クラーク」

史料の数は紹介状が七五名分、問合わせ書簡が一一三通であり、いずれも一八二一～三三年の間のものである。この二種の史料にはそれぞれ特色がある。先ず紹介状について見ると、これはオースティンが移住者受入条件の一つとして要求したものであって[5]、持参者が現実に移住したことは、ほぼ明らかである。しかし、内容は先の例に見る如く簡単であって、細かい事情は通常の場合解らない。移住前の居住地は解っても、職業は半数が不明であり、移住理由や目的については、ほとんど解らない。次に問合わせ書簡の場合、紹介状が形式内容共、大同小異であるのと異なり、多種多様であって、先の例はまったくの一例にすぎない。この場合、差出人が後にテキサスへ実際に移住したか否かは解らないが、その意志を持っていたことは明らかである。中には、すでにテキサスを訪れていたり、土地の選択をすましている者もいる。そして、職業はやはり約半数が不明であるが、移住希望理由や目的、移住後の計画の記されているものも多く、問合わせの事項から、彼等の関心の対象が解る。右の二種の史料によって、第一節に述べた問題を検討するわけであるが、史料の全部について、必要事項を表にまとめ、番号を付して、本稿の最後に掲げておいた。付表Aは紹介状、付表Bは問合わせ書簡をまとめたものである。

したがって前者を移住者リスト、後者を移住希望者リストとしておいた。

最初に、移住者及び希望者の年度別の分布を第一表に示しておく。一応、一八二一年から三三年の間で「オースティン文書」にのっている分はすべて含まれており、一八三四年以降には、この種の史料は見当らない。しかし、これが移住者及び希望者の全部でないことはいうまでもない。移住者のうちには紹介状を持参しなかった者もいたであろうし、紹介状や問合わせ書簡で紛失してしまったものも多いであろう。オースティン開拓地には、一八三一年までに五〇〇家族以上移住しているのであるから、残された史料は一部分のものにすぎない。とはいえ、大体の傾向を推定することは可能であろう。なお、移住希望者が、後に紹介状を持って実際に移住した例としては、ルイジアナの医者であったP・S・ルヒックス（付表A番号四六、付表B番号六一――以下においてはA・四六、B・六一の如く略記する）の場合[6]があるが、このように同一人物について二種の史料が共に残っていることは例外である。ただし、アーカンソーのR・アンドリュース（B・三）の如く、紹介状は残っていなくとも、他の史料から移住したことが明らかな者もいる。

第一表

年度	移住者	移住希望者
1821	9	19
1822	9	13
1823	1	2
1824	14	14
1825	17	20
1826	6	10
1827	1	7
1828	5	4
1829	0	4
1830	3	9
1831	0	4
1832	8	4
1833	2	3
計	75	113

第一表において、一八二一、二年及び、一八二四、五年の二度、移住者及び希望者の数が山をなしている。最初の山は、開拓地の建設が開始された時期であって、人々の関心が新開拓地に集まったことによるものであろう。その後しばらく開拓地の将来については不安があり、成功が危ぶまれたのであるが、一八二四、五年になると開墾も進み、開拓地の基礎も確実なものとなった。それが第二のピークの時期にあたる。一八二四、五年当時、ルイジアナやミシシッピにおいては、テキサス移住熱が高まっているといわれており[7]、これは一八一九年恐慌後の不況が回復に向った時期でもある。したがって第一表の数字の

増減は、開拓地への移住者及び希望者全体の傾向を、ほぼ忠実に反映しているといってよいであろう。

次に第二表として、移住者の前住地、移住希望者の居住地を、州単位でまとめておいた。現実の移住者よりも移住希望者が広範囲に分布していることは当然である。しかし、いずれの場合にもルイジアナ、ミズーリ、ミシシッピの三州が多く、この三州で移住者及び希望者の四六～四八％をしめている。アーカンソー（准州）、ケンタッキー、アラバマ、テネシーがそれに続き、以上の七州を合計すると移住者及び希望者の約七〇％をしめる。西漸運動において長距離移住は一般的でなく、多くの移住者は近接した州を好んだといわれているが、第二表においても、ほぼその傾向は認められる。なお、前記七州がいずれも奴隷制地域であることは、開拓地の性格に影響を与え、その社会を南部的な社会とするものであったと思われるが、この点については本稿では論じない[8]。またミズーリに、移住者、希望者が多いのは、オースティン一家が以前その州に住んでいたためであろう。ペンシルヴァニア、ヴァモント、マサチ

第二表

州	移住者	移住希望者
ルイジアナ	13	23
ミズーリ	11	21(b)
ミシシッピ	12	10(c)
アーカンソー	6	6
ケンタッキー	5	6
アラバマ	4	5
テネシー	3	9
オハイオ		5
イリノイ	1	2
インディアナ		1
ジョージア	1	1
ペンシルヴァニア	1	1
ヴァモント	1	1
ミシガン	3	1
マサチュセッツ	1	
ヴァジニア		1
メリランド		1
フロリダ		1
北カロライナ		1
ニュー・ヨーク		2
メキシコ(a)	3	4
不明	10	11
計	75	113

(a)テキサスを含む。
(b)(c)内1名はルイジアナかもしれない。

第三表

職業	移住者	移住希望者
農業	12(a)	15(b)
商人	5	13
職工	8	2
測量士	2	7
弁護士	1	4
医師	4	6
教師，牧師	2	2
事務員	2	2
鉱業		1
工場主		1
宿屋		1
印刷，雑誌		2
議員	1	
郵便局長	1	1
不明	37	56
計	75	113

(a)プランター3名を含む。
(b)プランター2名を含む。

ュセッツの如く遠く離れた州からの移住者もいるが、かかる場合には特別な理由があったとも思われる。マサチュセッツから移住したS・D・コルト（A・六八）の場合には、一旦ミシガンのデトロイトに移住して数ヶ月居住したが、健康的にも好ましくなく、商売も上手くゆかないので、テキサスへ移住することに決めたという。但し、紹介者たるJ・P・シェルダンは、自身も数家族をつれてテキサスへの移住を希望していた人物であるから、この移住者の決心には紹介者の影響が大きかったであろう。

第四表

職業／年度	農業	商人	職工	測量士	弁護士	医師	教師・牧師	事務員	鉱業	工場主	宿屋	印刷・雑誌	議員	郵便局長
1821	— 1		— 1	1 3	— 1	— 1	1 1				— 1		1 —	
1822	2 3	1 3		1 2				1 —		— 1				
1823			— 1											
1824	2 3	2 4	2 —				1 —	— 1	1					
1825	5 4	1 2	2 —	— 1	— 1	1 1						— 1		
1826	1 —					1 1								
1827	— 2	— 1				1 —								
1828			3 —	— 1		— 1								
1829														
1830		— 2				1 2	— 1	— 1						1 1
1831	— 1	— 1												
1832	2 1	1 —	1 —		1 1							— 1		
1833					— 1			1 —						

（注）各年度上段は移住者。下段は移住希望者の数。（—）は0名の意。

年度別、地域別の分布についてはこの程度にとどめ、次に本稿の課題に直接関係のある職業別の分布を第三表にかかげる。移住者、希望者のいずれの場合も約半数についてしか職業は解らない。移住者について見ると、七五名中、農業従事者一二名、非農業従事者二六名、不明三七名となっている。仮に不明の者をすべて農業従事者としても、全体の約三五％を非農業従事者がしめている。移住希望者一一三名中、非農業従事者は四二名であり、最も少なく見積っても約三七％となる。したがって、開拓地への移住者あるいは移住希望者中、非農業人口のしめる割合は、四〇％以上と考えることが妥当であろう。しかも彼等は、農民による開墾が一応済んでから移住したわけではない。職業の明らかな者のみを年度別に分類したのが第四表であるが、この表に見る如く、ごく初期の頃から非農業従事者が入っている。測量士が早い時期に多く存在することは当然としても、商人や職工もやはり初期から存在するのであって、農民が先ず移住し、後から町の住民が移住したということはできない。さて、これらの非農業従事者は、いかなる機会を求めて西部へ移住し、また移住を希望したのであろうか。彼等は豊かな農地を得て農民になることを望んだのであろうか。その点を次節で検討する。

（1）Barker, E. C., ed., Austin Papers, Vol. I, American Historical Association, Annual Report, 1919; Vol. II, Annual Report, 1922.
以下においては、AP I, AP II, と略記する。
（2）AP I, p. 421.
（3）AP I, pp. 531—2.
（4）AP I, p. 480.
（5）AP I, p. 705.
（6）但し、この場合には問合わせ状と紹介状の日付がごく近接しているから、返事をもらってから移住したわけではないであろう。
（7）AP I, p. 897, pp. 1020—1.
（8）前掲拙稿を参照。

三

先ず移住者について、その紹介状の文面を見てゆきたい。すでに述べた如く、紹介状は簡単なものが多く、文面も紋切形

のものが多い。ところで非農業従事者の場合、移住者がその職業において非常に有能である、という紹介のなされていることが、しばしばある。これは一見、何の意味もない当然の文句のようにも思われるが、農民の場合の紹介状と比べてみると、明らかな相違があることに気付く。農民の場合、例えばR・ブラザートン（A・一五）については、“industrious farmer”とあり、G・フィーズル（A・一七）については、“good industrious farmer”とあるように、通常、正直であるとか勤勉であるとか述べられているにすぎない。その他のことが述べられているのは特殊の場合（A・四五）（A・四八）であって、一般的にいえば農民は人物を保証されている。J・マッコイ（A・二九）が「正直かつ廉直の紳士であり、良き市民、勇敢な人」であるとされているのは、典型的な例といってよい。

それに対して非農業従事者は、一口にいえば人物と共に技能をも保証されている。例えば測量士のS・ディクソン（A・九）の場合、勤勉であり進取の気象に富むというのみでなく、「第一級の測量士であり、この州（ミズーリ）において公のために、かなりの測量をおこなった」と述べられている。別の測量士の場合（A・一六）には、彼が有能であること、そうした人が住民になることは、開拓地にとって有益であろう、と述べられている。職工のG・バフ（A・二四）J・サーヴィスン（A・二五）の場合には、鉄または木材を使用しての仕事において、最上の仕上りを期待できるし、彼等が移住してしまえば「あなたの地方（テキサス）は、職工についていえば、われわれの所より恵まれることになる」とも書かれている。かかる点は教師や医師の場合も同様であって、J・アレクサンダー（A・七）は、ジョージアの学園において大いに満足すべき授業をおこなったこと、P・S・ルヒックス（A・四六）は医師として有能であると同時に、人間的に尊敬と友情を集めたことが、紹介状に述べられている。

紹介状や推薦状といったものが、それを持参する人間の希望にそって書かれることは、多分いうまでもないことであろう。また、気に入らぬ紹介状をわざわざ持って移住した者がいたとも思えない。そうである以上、非農業従事者の持参した紹介状に、人物のみならず技能を保証してあることは、彼等が移住後にその技能を生かそうとしたことの証拠といえないだろうか。もし農民になる積りであったならば、何も測量士として、あるいは職工としての技術を保証してもらう必要はない筈である。他の農民と同様に、正直で勤勉であるとさえ書いてもらえば十分である。したがって、紹介状において有能さを保証された非農業従事者は、開拓地においても自己の職業を続けることを希望したと考えられる。付表Aを見れば、大部分がそうであったことが解る。

移住者の中には、かかる希望を持っていたことを、より直接に知り得る人々もいる。例えば商人のF・ビグハム（A・一八）は商業的意図を持っていたし、医師のL・クロンクライト（A・五七）は医師として開業することを希望していた。弁護士のJ・W・ロビンスン（A・七二）の場合にも紹介状によれば、彼は有能な弁護士であるが、すでにアーカンソーには同じ職業につく者の数が多すぎて、仕事が十分にあるとはいえぬために移住するのであり、移住後その仕事を続ける希望を持っていたことは明らかである。プランター（A・三九、A・四二）が奴隷を同行し、開拓地においてプランテーション経営を継続することを希望したのと同様に、農業以外の職業を持つ人々の多くは、開拓地においても農業以外の職業につくことを望んだのであった。もちろん彼等は土地を取得し、ある程度は農業にも従事したであろう。[1] しかし彼等の目的は農民になることではなかったし、開拓地の他の農民達が彼等に期待したのも専門的な技術を生かすことであったろう。開拓農民は「なんでも屋」であったといわれているが、専門家でなければできぬ仕事はフロンティアにも存在したのである。

次に移住希望者の問合わせ書簡から、非農業従事者の求めた機会を探ってみたい。紹介状と異なり内容豊富であるので、より具体的な希望を知ることができる。ここでも亦、農業に従事する者の問合わせ書簡と、非農業従事者のそれとを比較することから始めよう。農民からの照会事項は一般にいえば簡単であって、移住方法、土地取得方法、開拓地の一般状況とい

った事柄である。オハイオのG・エドワーズ（B・一一一）の場合には、かなり詳しく質問がされているので、それを引用して農民の関心がいかなる点にあったかを示そう。

「拝啓

私や多くの隣人は貴地方について、いろいろ知りたく思っている。気候、地味、産物について詳しく知りたい。また季節によって、極端に雨が多かったり乾燥したりするかどうか、市場の状況、産物の一般価格、また特に小麦をつくっているかどうか、エーカー当り何ブッシェルとれるか、を教えていただきたい。また土地購入の条件、開拓地の広さ、四〇もしくは五〇家族くらいを受入れられるかどうか、も知りたい。水車場の便はどうか、水力はどれくらいか。野獣にはどんな種類のものがいるか、当地でいわれているように野生の牛馬が沢山いるのか、羊はよく育つだろうか。また、学校等の状態はどうか、政府の現状はどうか、土着民の開拓地に対する態度はどうであるか、を教えてほしい。魚介類は豊富だろうか、その質はどうか。貴地の気候は北部の住民にむくかどうか。農業に必要な物資が容易に手に入るかどうか、もしそうでないのなら、どこで入手すれば一番よいかを知りたい。結局、開拓地の長所、短所、将来の見込等を全て知らせていただきたい。われわれは、小開拓地のため二人の人をおくり、状況を調べさせたい。貴殿の御返事をいただいてから、そうすべきかどうかを決める。その場合には、安全、経済、かつ迅速な交通路を教えていただきたい。

一八三三年二月一日　　オハイオ州セネカ郡アティカ　G・エドワーズ」

右の書簡には、奴隷の問題を別とすれば、移住後農業に従事しようとする人々の関心事項が、ほとんどすべて含まれている。集団移住し小開拓地を建設する希望を持っている点は特殊であるが、その点を除けば農民からの書簡の代表的な例といえる。非農業従事者からの書簡の内容がそれと著しく異なっていることは、第二節の最初に掲げたミシシッピの商人J・J・クラーク（B・二六）の書簡を見ても明らかであろう。

非農業従事者の問合わせ書簡において特徴的なことは、非常にしばしば、開拓地における自分の職業の将来性、あるいは仕事の見込について質問のあることである。例えば測量士のR・ミルズ（B・二八）は「自分の職業である測量の仕事につける見込があるかどうか確かめたい」と述べているし、商人のS・リッカー（B・二九）は「二～三〇〇〇ドルの商品を持っていって有利な商売ができるかどうか知りたい」と書いている。かかる点は弁護士（B・五八）や医師（B・六一）にしても同様である。トランシルヴァニア医学校において医学を学んだ若いW・A・フィックリン（B・八九）は、ルイジアナで開業していたが「もはやこの地方では医者を開業して産をなす時代は過去のものとなった」と述べ、開拓地の住民数、人口密度、衛生状態、医師の将来の見込を尋ねている。こうした問合わせをした者が、現在の職業を移住後も続けていこうとしていたことは、まず疑いの余地がない。

同様の希望をもっとはっきり述べている者もいる。職工のJ・C・ジールズ（B・一一）は、「当地（レキシントン）は不景気で職工への仕事の励みになるようなことがない」ので移住を希望し、「自分が開拓地で職工として役立つ点をいえば、私はどんな農具でも作ることができるし、住む家を建て、家具を作ることもできる。私は当地の蒸気機関を使う工場や水車場で働いたし、溶鉱炉の仕事もしたし、製紙工場用の機械の鋳型を作ったこともある」と述べている。また、S・S・ピアソン（B・三三）は「私は造船については、あらゆる分野のことをすべて完全に知っているし、繰綿機を動かすのに必要な機械の組立や、他の大工仕事もできる。……私の仕事を続けるために、できるだけ河口に近い川沿いの土地を取得したい」と希望している。

非農業従事者が、移住後も農業には従事したくないという意向を明らかにしている例として、教師のJ・M・アーサー（B・九）は、重労働はできぬとして事務的な仕事を望み、商人のT・ウェストール（B・四四）や、店員のS・R・ボーリン（B・四五）は町に住むことを望んでいる。彼等は土地を取得するにしても、自ら耕作する意志はなく、J・ケイブル（B・三八）の如く他人を雇って耕作させることになる。ニュー・ヨークの商人A・オースティン（B・一〇五）のいうように「過去長年の間、鵞ペンよりも重いものを持ったことがないので、私の手は鋤をにぎり、木を切るには軟らかすぎないかと怖れ

る」のが、当然の感情であったろう。したがって、農民になることを積極的に拒否した移住希望者も存在したのである。

西漸運動に参加し、あるいは参加を希望した非農業従事者が、フロンティアにおいて求めた機会、それが農場を得て独立した農民となることではなかったという事実が、ほぼ明らかとなってきた。この点を、移住後の計画の検討によって確認しよう。

移住者中、開拓地において製材所、製粉所あるいは繰綿場を建設する計画を持つ人々がいる（A・三一、五五、五六、六九、七〇）。いずれも職業がはっきり解らないが、ともかくも農業以外の仕事につくことによって、機会をつかもうとしていたことは明らかである。移住希望者中にも、職業は不明であるが、旅館を経営することを希望し（B・四九）、あるいは繰綿場、製材所の建設を希望する者（B・五六、七三、九三）が存在する。彼等が求めたのは、まさしく肥沃な農地以外のものであった。印刷業のR・C・ラングドン（B・六三）の場合もそういえよう。彼は新聞発行の可能性を尋ね「もしオースティン氏が、良き新聞は彼の目的達成を助け、その地方への移住者増大に役立つと考えるなら、私は最近シンシナティで求め、現在当地（ナッチェズ）にある全く新しい設備を持って移住できる。費用は一年分の紙代やテキサスまでの輸送費を含めて、一、〇〇〇ドルを越えぬだろう」と述べている。[2] 弁護士J・F・ミューズ（B・七）は、自分の職業のために市街地を取得することを希望し、さらに水利地を得て製材所を建設し、人々に建築資材を提供する計画を示している。また工場主のT・F・フィックリン（B・二二）は、刷整機、紡績機、縮絨機を所有し、ミズーリにおいて操業を開始しようとしていたが、テキサスに羊が多く、羊毛が安価であるというので、適当な水流があるならそこに工場を建設したい、と述べている。

フロンティアに生れたばかりの町での機会を求めた代表的な人々は、しかし商人であった。J・J・クラーク（B・二六）、S・リッカー（B・二九）、T・ウェストール（B・四四）等はいずれも商品を開拓地へ持ってゆくことを計画している。C・B・ペンローズ（B・八五）は主に酒類を扱う商人であった様子であるが、開拓地にラム酒の醸造所を建設する計画を持っていた。ここで、もっとも典型的なJ・W・フォークナー（B・九七）の書簡を掲げよう。

「拝啓

テキサスについてお尋ねすることを許していただきたい。先ず、湾に沿った港町で最大の町はどこか、一番大きくなりそうな町、最も良い後背地を持つ町はどこか、その場所は健康的かどうか、をお知らせいただきたい。また、いかなる商売がおこなわれており、永続きしそうであるか、雑貨はニュー・ヨークあるいはニュー・オルリンズでの仕入価格の何割増しで売られているか、それら商品をその町へ持ってゆくことは有利か不利か、等を教えていただきたい。また、私や友人隣人のために貴地の法律をお送り下されば幸いである。もし気に入れば、この春か秋には当地を出発するつもりである。なお、黒人を連れていってよいであろうか。貴地に住むジョセフ・ホワイトの兄弟であるワイリー・ホワイト船長が教えてくれたところでは、ブラソス河は最大の、また最も航行に適した川であり、川沿いには良い土地があるということである。また、その川が湾にそそぎこむ河口には、ボリバーという名の町があり、そこではかなりな商売がおこなわれており、その地方の最大の町であり、さらに大きくなりそうであると彼はいっている。こうした点についての貴殿の御意見は、最も重要であり、最良のものと思われるので、お教えいただければ、この件に大変興味を持っている約四十人の身分の良い人々も、非常に感謝することだろう。

もし地図を持っておられるか、あるいは川や町や湾や豊かな土地を示した地図を描いていただけるなら、お送り下されば有難い。また、ニュー・オルリンズやモビールから、ボリバーあるいは湾に面した他の町々へ、船がしばしば往来しているかどうか、乗客がその船を利用できるかどうか、その他必要と思われる事柄についてお知らせいただきたい。また、商品は、アラバマで通常おこなわれているように、掛で売られているかどうかもお教え下されば幸いである。……テキサスにおいて商品を売るのに最も良い町はどこだろうか、また、どんな種類の商品が最も適しているだろうか。私は家庭用品、農具等の金物、靴、帽子、既製服等を考えているが、高級品はほとんど考えていない。

一八三〇年二月二十三日

アラバマ州クラーク郡ウィギンズヴィル

ジョン・W・フォークナー」

まさに商人にとってのフロンティアとは、限りなく広がる豊かな土地ではなく、その中に生れた小さな町であった。もち

ろん、どれもがシンシナティやピッツバーグのように成長したわけではないし、町の名に価しないほど小さなものの方が多かったであろう。しかし、ともかくも商店、仕事場、宿屋、酒場等があり、さらに弁護士事務所や印刷所のある非農業集落が交通の便利な場所に形成されたことは、オースティン開拓地の場合にも認められる。[3]「私は商人として育てられたが、事態の変化によって父から資本を出してもらえなくなった。したがって私は資金にではなく、私の知識と勤勉さに頼らねばならない」と書いたJ・H・ペンローズ（B・二七）にしても、かかる町での機会を望んだのであり、鋤ではなく、鵞ペンを手に、知識と勤勉さを生かすことを希望したのであった。

（1）かかる事実が存在したことは、API, p. 1275 にも述べられている。
（2）後に開拓地で Texas Gazette という新聞が発行されているから、この計画が実現したのかもしれない。
（3）APII, p. 350.

四

オースティン開拓地への移住者及び移住希望者についての結論は、非農業従事者の希望は農場を取得して農民になることではなく、開拓地においても従来と同じ職業につき、彼等の特殊技能を活用することであった、とまとめられよう。もちろん、この結論を「西漸運動に加わった非農業従事者が、西部においていかなる機会を求めたか」という一般的な問いへの解答とすることはできない。しかし、これを一つの仮説として、一般的に適用し得るものと仮定すると、西漸運動史に関連の深い二、三の問題について、かなり説得力のある解釈が可能となる。以下、その点について記そう。

先ず、退役軍人兵士に与えられた土地証券の問題がある。[1]それが東部において二束三文で売却され、土地投機業者によって買い集められて利用されたことは良く知られている。西部への移住、そして農場建設には費用がかかったから、土地証券を与えられただけでは、実際に移住できなかったことは事実であろう。しかし、東部住民の大多数が西部へ移住して農民になることを希望していたならば、土地証券があれほど大量に売却され、しかもその価格が非常に低かったなどという現象が生じ得ただろうか。土地を現金で購入しなければならぬことが、フロンティアで農場建設を希望する人々にとっては、大きな障害だったのであって、それを無償で取得し得る権利を、そう安々と手離してしまう気になったろうか。土地証券を与えられた軍人兵士の内には、職工や店員など非農業従事者も多かったに違いない。彼等のしめた割合、さらにその内で移住を希望した者の割合が明らかにされぬかぎり、はっきりしたことはいえないが、たとえ移住を希望した者でも農民になることは希望していなかったとすれば、市場における土地証券の氾濫と低価格という事実を、より良く説明できると思う。

次に労働運動史に関連した問題がある。今日においてもアメリカ労働運動史の研究にあたっては、「安全弁説」が一部修正された上ではあるが採用され、労働者が農民になりやすかったことが一大特徴とされている。[2]ところで、西部の公有地を土地なき労働者に解放しようとしたエヴァンス George H. Evans 等、土地改革主義者の運動は、必ずしも影響力が大きかったとはいえず、労働運動の中心になったわけでもなかった。エヴァンスの考え方は、失われつつあった小生産者の独立を維持しようとする当時の人々の心理に適合していたといわれるが、それならば、なぜ彼等の運動はもっと大きな勢力を持ち得なかったのか。実際には "Vote Yourself a Farm" という標語に示されるような彼等の考え方が、東部労働者にはそれほど訴えかける力を持たなかったのではないか。彼等の活動を、労働運動史上のいわばエピソードにとどまらしめた一つの原因は、先の仮説に示された如き労働者側の条件ではなかったろうか。[3]

さて、最後の問題は土地投機に関してである。最近、現実の移住者による小規模な土地投機の問題が注目を集めている。例えばルデュックは、投機的に所有されていた土地の総量からいえば、大投機業者によるものよりも、現実の移住者が小規模におこなっていたものの合計の方が多かったのではないか、といっている。[4]ところで、かかる小規模な土地投機は、時に

農民的土地投機と呼ばれることがあるが、実際には、かなりの割合が非農業従事者によるものと思われる。西部へ移住した非農業従事者にとって農民になることは目的でなかったにせよ、オースティン開拓地の場合にも見られる如く、彼等が土地を取得しなかったわけではない。西部における土地価格の上昇は継続的に認められた現象であった。これは未耕地についても同様であったから、非農業従事者の場合にも、資金さえあれば土地を取得しておくことが有利であった。もちろん彼等の中には、大規模な土地投機をおこなう商人等も存在したであろうが、そうした意図は持たぬ職工や店員も土地取得はおこなった。そして、それが結果的には小規模な土地投機となるわけである。(5)

西部への移住者中において、非農業人口のしめる割合は、オースティン開拓地の場合、ほぼ四〇％と推定した。一般的にはこの割合はどうであったか。一応の近似値を、フロンティア的な州における職業別人口統計から求めてみよう。一八六〇年、フロンティア的な様相を持つ州として、ミネソタ、カンサス、テキサスの三州を選び、センサスによって非農業人口の割合を計算してみた。結果は、ミネソタ四八％、カンサス四〇％、テキサス四五％となる。(6) この数字から見ると、フロンティア的な州において、有業人口の少なくとも四〇％が非農業人口であった。彼等にとって土地取得、農場建設が二次的目的であり、しかもなお土地取得をおこなったとすれば、現実の移住者による土地投機の量の大きかったことも当然といえる。さらに彼等が、その土地の耕作を小作人にさせるとか、農業労働者を雇っておこなわせる場合もあったわけであり、ここに小作制の問題等も生じてくる。すなわち、非農業従事者が取得した土地をいかに処理したかが、その地域の農業生産のありかたに関連を持ってくるのであるが、ここではもはやその点までは触れ得ない。

以上、非農業従事者の西部移住の目的が必ずしも農民になることではなかった、という仮説の有効性を、ある程度、示し得たと考える。西漸運動史の研究において非農業人口の問題は、未だほとんど未開拓の分野といってよいが、それだけに今後の研究の進展によっては、西漸運動の全体像を新しい観点から再構成することの可能性も期待できるであろう。(7)

（1）O'Callaghan, J. A., "The War Veteran and the Public Land," Agricultural History, Vol. 28 (1954).

（2）イリノイ大学ガーマン教授 P. L. Garman の慶応大学大学院でのアメリカ労働運動史の講義による。

（3）この運動については、Zahler, H. S., Eastern Workingmen and National Land Policy: 1829—1862 (N.Y., 1941). なお、山本幹雄氏は「南北戦争・その史的条件」（昭三八）において、労働者と土地の問題につき、筆者とは全く異なる見解を述べておられる。

（4）LeDuc. T., "Public Policy, Private Investment, and Land Use in American Agriculture, 1825—1875," Agricultural History, Vol. 37 (1963).

（5）土地投機には市街地投機をも含める。しかし、非農業従事者が市街地のみを取得したわけではない。

（6）U. S. Census Office, Population of the U. S. in 1860 (Wash. D. C., 1864) pp. 656—680 による。なお、この割合は有業人口中における非農業人口の割合である。

（7）この点について、Pomeroy, E., "The Changing West," in Higham, J., The Reconstruction of American History (London, 1962) を参照。

付表 A (1) 移住者リスト

資料番号	移住者及び移住年月	紹介者又は保証人	移住前居住州	移住者の職業技能	紹介事項その他	出典
1	John Woolsey 1821. 9	Wm. Stevenson 他	Ark.		保証人21名	I, 414-5
2	John Edens 1821. 9	同 上	Ark.			同上
3	Elijah Kelly 1821. 9	同 上	Ark.			同上
4	John Marshall 1821. 9	同 上	Ark.			同上
5	James Collinsworth 1821. 10	G. Poindexter 他	Miss.		保証人は州知事	I, 421
6	Hardy Coward 1821. 11	G. Poindexter	Miss.		単に旅行か？	I, 425-6
7	J. Alexander 1821. 11	Y. M. Daniel	Ga.	教 師	教師として有能	I, 436
8	James Johnson 1821. 12	John. R. Jones	Mo.	民軍大佐議員	保証人に対する保証あり	I, 442
9	Samuel Dixon 1821. 12	James Evans	Mo.	測量士航海術	測量に有能紹介状他に2通	I, 452
10	Mr. Murray 1822. 1	J. H. Hawkins	La.	会計士		I, 463
11	David Tally 1822. 2	B. Shakelford	Ky.			I, 472
12	Federal Walker 1822. 2	Robert Dawson	Mo.			I, 479-80
13	Charles Caldwell 1822. 3	James C. Carr	Ky.			I, 483-4
14	John Little 1822. 4	Andrew Boggs	Pa.		保証人に対する保証あり	I, 491
15	Robert Brotherton 1822. 4	A. McNair	Mo.	農 民		I, 493-4
16	Seth Ingram 1822. 5	J. H. Hawkins		測量士	開拓地に有益	I, 520
17	George Feazle 1822. 7	Oliver J. Morgan 他	La.	農 民		I, 531-2
18	Francis Bigham 1822. 10	John P. Hampton 他	Miss.	商 人	商業的意図をもつ移住	I, 546-7
19	John Hall 1823. 12	J. Thomas	La.			I, 712

付表 A のつづき (2)

資料番号	移住者及び移住年月	紹介者又は保証人	移住前居住州	移住者の職業技能	紹介事項その他	出典
20	Thomas Westall 1824. 4	同 上	Tenn.			I, 765
21	Green Dewit 1824. 6	Wm. Trimble	Ark.		後にデウィット開拓地を建設	I, 842
22	Mr. Cherbonier 1824. 7	John Sibley	La.	教 師	商用旅行か？	I, 847
23	Mr. Trizena 1824. 7	同 上		商 人	商用旅行か？	同上
24	George Huff 1824. 9	Wm. Johnson	Miss.	鍛冶屋	非常に有能	I, 887-8
25	Joseph Servison 1824. 9	同 上	Miss.	職 工	非常に有能	同上
26	Russel H. McWaters 1824. 9	J. Thomas	La.			I, 898-9
27	Samuel Fulton 1824. 9	同 上	La.			同上
28	Zadock Woods 1824. 10	John Ruland	Mo.	商 人	商売に失敗したので，再出発を希望	I, 916-7
29	Joseph McCoy 1824. 10	A. McNair	Mo.	農 民	紹介者は州知事	I, 923
30	Allen 兄弟 1824. 11	Martin Allen	La.	農 民	紹介者は移住者（2名）の父親	I, 937
31	Thomas Hooper 1824. 12	J. Thomas	La.		職工を同行し水車場繰綿機をつくる	I, 986-7
32	Coastworth P. Welborn 1824. 12	John Greig	La.			I, 992-3
33	Samuel C. Hirams 1824. 12	同 上	La.			I, 993
34	Henry Munson 1825. 1	J. Iiams	Tex.		奴隷及び家畜所有	I, 1025-6
35	Micajah Munson 1825. 1	同 上	Tex.		奴隷及び家畜所有	同上
36	Jacob Huff 1825. 1	George Huff	Miss.			I, 1026
37	Peter Conrad 1825. 1	同 上	Miss.			同上
38	Mr. Brooks 1825. 1	同 上	Miss.			同上

付表 A のつづき (3)

資料番号	移住者及び移住年月	紹介者又は保証人	移住前居住州	移住者の職業技能	紹介事項その他	出典
39	Jesse H. Cartright 1825. 1	同上	Miss.	プランター	奴隷約50名同行，他にも紹介状あり	同上
40	J. H. Shropsher 1825. 2	Thomas Hooper		商人	商用旅行か？	I, 1033-4
41	Ila Ingram 1825. 2	H. Johnson	La.		紹介者は州知事	I, 1045
42	Wm. Perkins 1825. 3	Wm. Johnson	Miss.	プランター	砂糖又は棉花栽培を希望	I, 1053-4
43	Mr. Kerr 1825. 4	Nathaniel Cox	Mo.		奴隷所有	I, 1079
44	Hugh Connell 1825. 5	Joshua Child	Miss.	旧役人プランター		I, 1091-2
45	Francis Keller 1825. 6	Morgan A. Heard	Miss.	農業	大家族，資金豊富他にも紹介状あり	I, 1141
46	P. S. Le Hicks 1825. 7	John Carr	La.	医師	医師として有能	I, 1146
47	Robert Gillespie 1825. 8	Morgan A. Heard	Ala.	職工	機械知識豊富	I, 1165-6
48	John Mathews 1825. 11	M. Wilkinson	Mo.	農業	大家族，鉱物等にもくわしい	I, 1236-7
49	Mr. Riddle 1825. 12	Benjamin Lindsey		鍛冶屋	紹介者の土地を耕作	I, 1242
50	Mr. Carson 1825. 12	同上			同上	同上
51	Wm. Haydon 1826. 1	L. Hawkins	Ky.		他にも紹介状あり	I, 1260
52	Jacob Fry 1826. 1	同上	Ky.	医師	有能な医師他にも紹介状あり	同上
53	G. W. Heines 1826. 2	W. Christy	Mo.			I, 1263-4
54	Wm. Lafaughn 1826. 2	L. Hawkins	Ky.	農民		I, 1264
55	Elijah Stapp 1826. 3	Green DeWitt	Mo.		多数の家族のため土地を選び，水車場，繰綿場等建設	I, 1271
56	Wm. Duncan 1826. 3	同上	Mo.			同上
57	Lyman Cronkrite 1827. 7	S. Cartwright		医師	移住後医師開業を希望	I, 1673

付表 A のつづき (4)

資料番号	移住者及び移住年月	紹介者又は保証人	移住前居住州	移住者の職業技能	紹介事項その他	出典
58	Silus Fuqua 1828. 1	Richard Ellis	Ala.	職工	非常に有能	II, 2-4
59	Ephram Fuqua 1828. 1	同上	Ala.	職工		同上
60	Benjamin Fuqua 1828. 1	同上	Ala.	職工		同上
61	Job. Ingram 1828. 1	同上				同上
62	Kye. Ingram 1828. 1	同上				同上
63	James Bowie 1830. 2	T. F. McKinney				II, 331-2
64	S. H. Barlow 1830. 8	A. Holdridge	Vt.	郵便局長	単に旅行か？	II, 471
65	N. D. Labadie 1830. 12	D. R. Hopkins	La.	医師	医師又は商人として働きたい	II, 565
66	Thomas Christian 1832. 3	James Clark	Ill.	農民		II. 757
67	A. Houston 1832. 9	L. H. McNeil	Tenn.			II, 857
68	S. D. Colt 1832. 10	J. P. Sheldon	Mass.		一旦ミシガンへ移住した後の再移住	II, 878
69	Robert LeRoy 1832. 11	同上	Mich.	職工あるいは農民	彼等につづいて15～20家族が移住希望，製材所を建設	II, 885-7
70	E. Comstock 1832. 11	同上	Mich.			同上
71	S. Denton 1832. 11	同上	Mich.		妻の健康のため移住	II, 885
72	James W. Robinson 1832. 12	Andrew Scott	Ark.	弁護士	Ark.では仕事の見込がないので移住	II, 901-2
73	Alvan Wetherby 1832. 12	Thomas G. Western	Tex.	商人		II, 908-9
74	Henry Anthony 1833. 2	D. W. Anthony				II, 924
75	Wm. K. Hill 1833. 2	Charles W. Webber	Tenn.	議会職員		II, 928-9

(注) 移住年月は，紹介状もしくは保証状の日付によるものであって，到着年月ではない。
出典の欄の I, II は Austin Papers, vol. I, vol. II の略。

付表 B のつづき (2)

資料番号	移住希望者及び発信年月	居住州	職業，技能	家族，同行者	照会事項，移住後の計画，その他	出典
20	James Beatty 1822. 1	Mo.		数家族	政治，交通手段，居住条件	I, 460
21	James Allcorn 1822. 1	Mo.	農民	家族11名	一般状況	I, 461-2
22	T. F. Ficklin 1822. 1	Mo.	工場主	職工，若者	工場建設により得られる利益	I, 462-3
23	John C. Brickey 1822. 1	Mo.			一般状況	I, 466-7
24	Andrew Mitchell 他 1822. 1	Fla.	農民	農民多数	開拓地の歴史，現状	I, 472
25	Robert D. Dawson 1822. 2	Mo.			気候，風土その他一般状況	I, 479-80
26	John J. Clarke 1822. 2	Miss.	商人		商品運搬方法，一般状況	I, 480
27	James H. Penrose 1822. 3	Mo.	商人	若者	将来の見込	I, 482
28	Roswell Mills 1822. 3	Ohio	測量士	小家族	測量士の仕事見込	I, 490
29	Samuel Ricker, Jr. 1823. 5	La.	商人		商業の可能性	I, 506
30	Alijah Hull 1822. 5	Ind.	測量士		測量士の仕事見込	I, 506-7
31	Samuel Ayers 他 1822. 6	Ky.	農民	30～50家族職工，商人，工場主等	テキサス移住者協会を結成している	I, 521-3
32	David T. W. Cook 1822. 7			数家族		I, 535
33	S. S. Pearson 1823. 1		造船，機械組立，大工		造船，機械組立に好適地を取得希望	I, 572
34	Wm. Stevenson 1823, 10	Ark.			居住条件	I, 697-8
35	Hugh McGuffin 1824. 2	La.			オースティンの友人，土地確保希望	I, 740
36	James Grant 1824. 3	La.	商人		I, 1030参照	I, 756
37	Mathew Scobey 1824. 5	Ark.	農民	多数	一般状況	I, 807
38	J. Cable 1824. 8	La.	商人		土地は他人を雇って開墾させたい	I, 875

付表 B (1) 移住希望者リスト

資料番号	移住希望者及び発信年月	居住州	職業，技能	家族，同行者	照会事項，移住後の計画，その他	出典
1	J. C. Harbison の息子 1821. 9	Mo.	測量			I, 412
2	Wm. N. Henderson 1821. 11	La.	測量，航海，役人	妻，子供2名，隣人数家族	土地入手方法，パイロット，測量士，又は農業	I, 423-4
3	Robert Andrews 1821. 11	Ark.	測量	職工数名	オースティンから移住を勧誘されたもの	I, 424-5
4	Wm. F. Roberts 1821. 11	Ill.			移住後の保証	I, 427-8
5	Joseph T. Montgomery 1821. 11			数家族	移住方法一般，開拓地の状況	I, 433-4
6	Eramus Ellis 1821. 11	Mo. 又は La.		数家族及び職工	交通手段	I, 437-8
7	James F. Muse 1821. 12	La.	弁護士	妻子，奴隷10～15名	市街地を得，水車場建設	I, 438-9
8	George Tennille 1821. 12	Mo.			当地は寒冷すぎるので移住希望	I, 440
9	J. M. Arther 1821. 12	Ky.	教師	妻子4名，奴隷1名	事務的仕事につきたい，重労働できぬ	I, 440-1
10	Samuel Parker 1821. 12	Va.			開拓地の状況，交通手段等	I, 441-2
11	James C. Shields 1821. 12	Ky.	職工	妻 職工数名	居住条件，職工として役立ちたい	I, 443-4
12	John C. Harbison 1821. 12	Mo.		息子は測量士	宗教，測量士の移住後の見込，No. 1 参照	I, 445
13	G. Pearce 1821. 12				居住条件，居住者	I, 445-6
14	Robert C. Bruffey 1821. 12	Mo.				I, 446-7
15	James T. Dunbar 他 1821. 12	Md.	宿屋他		宗教，土地	I, 447-8
16	James Evans 1821. 12	Mo.			一般状況	I, 452
17	Daniel Draper 1821. 12	S.C.	農民	数家族	交通手段，宗教	I, 454-5
18	Daniel Dunklin 1821. 12	Mo.		約50家族	政治，居住者，商業	I, 455-6
19	J. Sargeant 1821. 12	Ohio	医師	職工，農民	生活状態	I, 459-60

付表 B のつづき (3)

資料番号	移住希望者及び発信年月	居住州	職業，技能	家族，同行者	照会事項，移住後の計画，その他	出典
39	Wm. Johnson 1824. 9	Miss.	プランター旧軍人	10～12家族，職工		I, 887-8
40	Wm. Anderson 1824. 9	Miss.		3～4家族	居住条件 I, 1043—4 参照	I, 889
41	John A. Williams 1824. 9	Tex.	農業	奴隷数名	土地払下条件	I, 892
42	Henry Holstein 1824. 9				市街地取得希望	I, 894
43	John Hawkins 1824. 9	Mo.	商人	子供6名	商業の見込	I, 900-4
44	Thomas Westall 1824. 11	Tenn.	商人	他の商人	商品を持参する，市街地に居住希望	I, 941
45	Solomon R. Bolin 1824. 12	Mo.	事務職		町に住みたい	I, 982-3
46	R. Carpenter 1824. 12	Mo.	鉱業		当地では金儲けの見込なし	I, 989
47	John Botts 1824. 12	La.			耕作する人を先におくる	I, 990-1
48	R. R. Royall 1824. 12	Ala.			スペイン人からテキサスの土地購入	I, 1004-6
49	Anthony R. Clarke 1825. 1	Mex.	農業	Mrs. Eliza Page	同行者は旅館（酒屋）をつくることを希望	I, 1009-10
50	Francis Biggam 1825. 1	Miss.			土地，移住のおくれる理由	I, 1012
51	David H. Holstein 1825. 1	La.	農業		土地，移住のおくれる理由	I, 1030-1
52	Thomas Hooper 1825. 2	La.		数名	土地	I, 1033-4
53	Charles Douglas 1825. 2	Ala.		数家族	宗教，奴隷制，気候，地質，交通手段	I, 1046-9
54	Kinchen Holliman 1825. 2	Miss.	農業		土地，移住がおくれる	I, 1050-1
55	H. Connell 1825. 2	Miss.		数名	土地	I, 1051-2
56	Isaac D. Oglem 1825. 3	La.			繰綿場，製材所等を建設	I, 1055
57	Wm. Brenaugh 1825. 3	La.		奴隷12名	土地	I, 1060

付表 B のつづき (4)

資料番号	移住希望者及び発信年月	居住州	職業，技能	家族，同行者	照会事項，移住後の計画，その他	出典
58	John S. Wills 1825. 3	Ohio	弁護士	息子（弁護士）甥（医師）他	政治，司法制度，弁護士の将来の見込	I, 1062
59	Sam Sexton 1825. 5	La.		2名	土地	I, 1089
60	Martin Allen 1825. 5	La.			土地	I, 1092-3
61	P. S. Le Hicks 1825. 6	La.	医師		医師の将来の見込	I, 1112
62	Martin F. Maher 1825. 6	La.			土地，一般状況	I, 1118-9
63	Richard C. Langdon 1825. 6	Miss.	印刷業		新聞発行の可能性	I, 1143
64	Joshua Marsh 1825. 9	La.	商人	奴隷5名	余生をテキサスでおくりたい	I, 1189
65	Wm. P. Perkins 1825. 9	Miss.	プランター		耕作者を先に移住させる	I, 1208
66	James Norton 1825. 10	La.				I, 1224-5
67	N. Rightor 1825. 10	Ark.	測量士	妻，子供2名	一般状況	I, 1227
68	John Smith 1825. 12	Miss. 又は La.	商人？	友人達	商業見込，宗教	I, 1242-3
69	D. Crozer 1826. 2	Ky.			将来の見込	I, 1262-3
70	I. C. Devan 1826. 2	Miss.			事務的仕事をしたい	I, 1267
71	Leonidas W. Baker 1826. 2	Ky.	医師		一般状況	I, 1267-8
72	John C. Walker 1826. 3	Tenn.			一般状況	I, 1274
73	J. Blair 1826. 5				蒸気機関で製材をしたい	I, 1345-7
74	D. W. Smith 1826. 9	Mex.			土地	I, 1453-4
75	H. H. Leaque 1826. 9	Tenn.			移住者斡旋をしている	I, 1459-60
76	Felix Robertson 1826. 11	Tenn.			健康上移住希望	I, 1489

付表 B のつづき (5)

資料番号	移住希望者及び発信年月	居住州	職業，技能	家族，同行者	照会事項，移住後の計画，その他	出典
77	Nicholas Dorsey 1826. 11		語学に達者		英仏西に堪能であるから役に立つだろう	I, 1523
78	Robert Rankin 1826. 12	Ala.			奴隷制	I, 1531
79	Edmund Bean 1827. 1	Tenn.		子供4名	テキサスでの反乱について	I, 1595
80	James Davis 1827. 1	Tenn.	農業	親類，友人	奴隷制，反乱	I, 1598
81	J. Tate 1827. 2				製糖事業の計画	I, 1608-9
82	Saml. Bridge 1827. 5	Ark.			反乱	I, 1647-8
83	Byrd Lockhart 1827. 6	Mo.	農牧業	親類，友人	土地	I, 1654-5
84	Willis J. Powell 1827. 6	Mex.			一般状況	I, 1662
85	C. B. Penrose 1827. 6	La.	商人		ラム醸造所建設希望	I, 1663-5
86	Henry S. Brown 1828. 3	La.			奴隷	II, 27
87	Amos Edwards 1828. 7	Tenn.			土地投機について	II, 68-70
88	Saml. Parkman 1828. 8	Mo.	測量士		測量士への誘引の有無，一般状況	II, 85-6
89	W. A. Ficklin 1828. 8	La.	医師		医師の将来の見込	II, 92-3
90	Thomas White 1829. 1	La.		5～6家族	居住者	II, 164-5
91	W. Taylor 1829. 7	Mex.			土地	II, 241-2
92	James Kennerly 1829. 8	Mo.		奴隷	一般状況	II, 249
93	R. C. Nicholas 1829. 10	Tenn.			製材所建設，沿岸交易開始	II, 263-4
94	David Bucklin 他 1830. 1	Ohio	郵便局長	6家族	当地は不健康，一般状況	II, 320
95	Gideon Blackburn 1830. 1	Ky.	牧師，教師	40～100家族	学芸，宗教振興のための開拓地建設	II, 322-3

付表 B のつづき (6)

資料番号	移住希望者及び発信年月	居住州	職業，技能	家族，同行者	照会事項，移住後の計画，その他	出典
96	Abiel P. Mead 1830. 2	N. Y.	医師	8～12家族医師，職工他	土地，一般状況	II, 332-3
97	John W. Faulkner 1830. 2	Ala.	商人		商業可能性，港の状態	II, 335-6
98	Robert Wescott 1830. 3	Mo.	商人	妻，娘7名	当地は不景気	II, 343-6
99	Thomas Carter 1830. 4	Ga.		家族10名奴隷20名	一般状況，宗教，奴隷制	II, 364-5
100	Joseph D. Grafton 1830. 5	Mo.	裁判所書記	妻，子供7名	自由職業や実業家の移住後の見込	II, 372
101	S. Rhoads Fisher 1830. 6	Pa.			政治情勢	II, 406
102	A. Holdridge 1830. 8	Vt.	医師	50家族以上	開拓地の歴史，一般状況	II, 471
103	Mary A. Holley 1831. 1	La.			オースティンの従妹，息子の将来	II, 570-1
104	A. C. Taylor 1831. 2	Ill.	果樹栽培	約12家族	土地，一般状況	II, 597-8
105	Archibald Austin 1831. 6	N.Y.	商人		農業以外の仕事も持ちたい	II, 669-71
106	Walter Turnbull 1831. 10				移住がおくれる	II, 699-700
107	James W. Parker 1832. 6	Ark.		25家族	宗教	II, 805
108	W. C. Whitaker 1832. 7				政治社会情勢	II, 824-5
109	John P. Sheldon 1832. 10	Mich.	雑誌発行	10～20家族	移住がおくれる	II, 878-80
110	A. C. Ainsworth 1832. 12	Ala.	弁護士		プランターの移住について	II, 906-8
111	G. Edwards 1833. 2	Ohio	農業	40～50家族	小開拓地建設希望	II, 923-4
112	Oliver P. Jackson 1833. 2	La.	弁護士		将来の見込	II, 926-8
113	Charles W. Webber 1833. 2	Tenn.			政治情勢	II, 928-9